

よりよい撮影のための設定

ピントの合わせかたを変える

ピント合わせの方法には、以下の4種類があります。これらをフォーカスモードといいます。最初はオートフォーカスモードが選択されています。

フォーカスモード	説明	ピントが合う距離**						
AF オートフォーカス	シャッター半押しで自動的にピントが合います。	自動調整 (約30cm～∞(無限遠)) ● 最短距離は光学ズームの位置で変わります。						
M/A マクロ(接写)	オートフォーカスより近い距離に自動的にピントが合いません。近くのを撮影するときに使用します。	自動調整 (約10cm～約40cm) ● 最短距離は光学ズームの位置で変わります。						
∞ 無限遠	ピントは無限遠に固定されます。景色などの遠景の撮影に使用します。	無限遠						
MF マニュアルフォーカス	手でピントを合わせることができます。	● ピントを合わせることができる範囲は光学ズームの倍率で変わります。 <table border="1"><thead><tr><th>光学ズーム倍率</th><th>範囲</th></tr></thead><tbody><tr><td>1倍</td><td>約10cm～∞</td></tr><tr><td>7倍</td><td>約1m～∞</td></tr></tbody></table>	光学ズーム倍率	範囲	1倍	約10cm～∞	7倍	約1m～∞
光学ズーム倍率	範囲							
1倍	約10cm～∞							
7倍	約1m～∞							

**ピントが合う距離はレンズの表面からの距離です。

フォーカスモードは次の手順で変えます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定” タブ→
“フォーカス方式”と選び
【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選
び、【SET】を押す

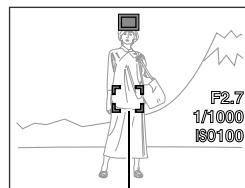
- 各フォーカスモードでの
撮影方法は次の項以降で
説明します。

フォーカスモードのアイコン



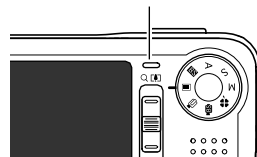
自動でピントを合わせる(オートフォーカス)

1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームの中に入れて、シャッターを半押しする
ピント合わせが行われます。
ピントが合ったかどうかは動作確認用ランプとフォーカスフレームの点灯のしかたによって分かります。



フォーカスフレーム

動作確認用ランプ



状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせできない	緑点滅	赤点灯

2. シャッターを全押しして撮影する

参考

- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- オートフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。

例: AF ○○ cm - ∞

※ ○○ には数字が入ります。

近くを撮影する(マクロ)

1. シャッターを半押ししてピントを合わせる
ピントの合わせかたはオートフォーカスモードと同じです。
2. シャッターを全押しして撮影する

重要

- マクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像にレンズ部の影が映し込まれることがあります。

参考

- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカスの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- マクロ(接写)撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
例: ○○ cm - ○○ cm
※ ○○ には数字が入ります。

オートフォーカス/マクロモードでの撮影テクニック

オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)を変える

オートフォーカス(AF)の測定範囲を変更することができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“AFエリア”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

【●】 スポット：

中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック(80ページ)を活用した撮影に便利です。

【田】 マルチ：

シャッターを半押しすると、9つの測距点の中から、カメラが自動的に最適な測距点を選びます。ピントが合ったと判断された複数の点が同時に緑色で点灯表示します。

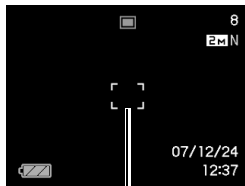
【追】 追尾：

シャッターを半押しすると、ピントを被写体に合わせるとともに、被写体の動きに合わせてフォーカスフレームが追尾します。

参考

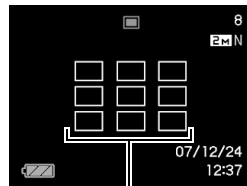
- “【田】 マルチ”に設定すると、9つのフォーカスフレームが表示されます。シャッターを半押しすると、ピントが合った場所のフォーカスフレームが緑色で表示されます。

“【●】 スポット”、“【追】 追尾”の場合



フォーカスフレーム

“【田】 マルチ”の場合



フォーカスフレーム

重要

- “【追】 追尾”に設定すると、次の機能が使用できません。
 - セルフタイマー
 - 通常連写、高速連写、フラッシュ連写

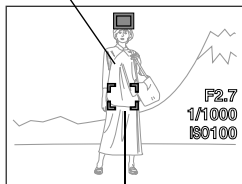
フォーカスロック

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロックというテクニックを使います。

- AFエリアは、“**[]** スポット”または“**[]** 追尾”にしておきます。

1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、シャッターを半押しする

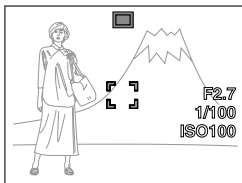
ピントを合わせたい被写体



フォーカスフレーム

2. シャッターを半押ししたまま、撮影したい構図を決める

- AFエリアを“**[]** 追尾”にした場合は、被写体と一緒にフォーカスフレームが動きます。



3. シャッターを全押しして撮影する

参考

- フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。

クイックシャッター

クイックシャッター機能を使うと、シャッター半押しによるオートフォーカスが完了する前にシャッターを全押しすることで、通常よりも高速なフォーカス合わせを行って撮影することができます。シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。

- 正確にピントが合わない場合があります。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“クイックシャッター”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
入:クイックシャッターが機能します。
切:クイックシャッターが機能しません。
4. シャッターを一気に押し込んで撮影する
シャッター半押しを省略した場合、通常のオートフォーカスを作動せずにクイックシャッターで撮影されます。

遠くを撮影する(無限遠)

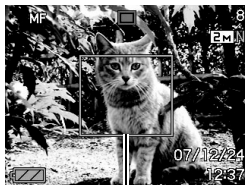
∞(無限遠)にピントが固定されます。景色など遠景を撮影するときに使用します。車や列車の窓越しなど、オートフォーカスが難しいところからの景色の撮影にも活用できます。

1. シャッターを押して撮影する

手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)

被写体を拡大表示させた状態で、手動でピント調整ができます。走ってくる列車などを撮影するときに便利です。あらかじめ列車の通過点の目標物(電柱など)に手動で合わせておくことで、ピント合わせの操作をせずに素早く撮影ができます。

1. ピントを合わせたい被写体を黄色枠に入れる



ピント合わせの黄色枠

2. 液晶モニターを見ながら【◀】【▶】でピントを合わせる このとき、ピント合わせがしやすいように拡大表示になります。

【◀】:近い側にピントを合わせる

【▶】:遠い側にピントを合わせる

- 約2秒間操作をしないと、手順1の画面に戻ります。

3. シャッターを押して撮影する

参考

- マニュアルフォーカス撮影時に光学ズーム(47ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。

例:MF ○○ cm - ∞

※○○には数字が入ります。

重要

- マニュアルフォーカスを選択しているとき、キーカスタマイズ機能で設定した【◀】【▶】の設定は使用できません(93ページ)。





手ブレや被写体ブレを軽減する

遠くの被写体を望遠で撮影したり、動きの速い被写体を撮影したり、薄暗い場所で撮影したりするときに画像がぼやけたり流れて見えることがあります。これはシャッターを押すときにカメラが動いたり(手ブレ)、被写体の動きが速すぎる(被写体ブレ)ことが原因です。ブレ軽減の機能を使って、このようなブレを少なくすることができます。本機には、「CCDシフト方式手ブレ補正機能」と、「高感度被写体ブレ軽減機能」が搭載されています。このふたつを最適に組み合わせて手ブレや被写体ブレを軽減することができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す





2. “撮影設定”タブ→“ブレ軽減”と選び、【▶】を押す




3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

-  オート : 手ブレを軽減するだけでなく、状況に応じて被写体ブレも最適に軽減します
 -  手ブレ補正 : 手ブレだけを軽減します
 -  被写体ブレ : 感度を上げて、被写体ブレだけを軽減します
 -  手ブレDEMO : シャッターを半押ししている間、画面上で手ブレ補正の効果を確認することができます。ただし、シャッターを全押ししても実際に撮影を行うことはできません。電源を切るとこの設定は解除され、直前に使用していた設定に戻ります。
- 切 : すべてのブレ軽減をオフにします

ブレ軽減撮影を設定すると、液晶モニターに設定内容に対応したアイコンが表示されます。

重要


- “ブレ軽減”の設定を“ オート”または“ 手ブレ補正”にしている場合、シャッターを半押ししているときに振動と動作音がしますが、故障ではありません。
- “ オート”に設定してある場合は、シャッターを半押ししても、画面上にISO感度、絞り、シャッター速度が表示されません。“ オート”の場合は撮影した直後に表示される画像確認のための画面にISO感度、絞り、シャッター速度が表示されます。

- ISO感度を“オート”にしていないと、高感度被写体ブレ軽減機能が働きません(87ページ)。
- ブレ軽減で撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感が劣る場合があります。
- 手ブレや被写体ブレが大きい場合、ブレを軽減できない場合があります。
- 動画を撮影するときも、手ブレを軽減しながら撮影することができます。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません(62ページ)。
- シャッター速度が遅くなる撮影をすると、十分な手ブレ補正効果を得られない場合があります。その場合は三脚を使用してください。三脚を使用して撮影を行う場合は、CCDシフト方式手ブレ補正が正常に動作しません。“ブレ軽減”の設定を“切”または“被写体ブレ”に設定してください。
- 撮影時の明るさに応じて、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行う場合があります。この場合、撮影が終了するまでの時間が長くなります。
- Sモード(シャッター速度優先AE)、Mモード(マニュアル露出)(57ページ)では“手ブレ補正”以外は働きません。また、Sモード(シャッター速度優先AE)、Mモード(マニュアル露出)で、シャッター速度を4秒よりも遅く設定すると、“手ブレ補正”も働かなくなります。

ライトを使って撮影する(撮影ライト)

暗い場所での動画撮影時にライトを点灯させると、被写体を照らすライトとして使うことができます。




1. 撮影モードにして、モードダイヤルを“”に合わせる
2. 【MENU】を押す
3. “撮影設定”タブ→“撮影ライト”と選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す


入：AF補助光／撮影ライト／セルフタイマーランプが常時点灯

切：AF補助光／撮影ライト／セルフタイマーランプは点灯しない

- 撮影ライトが“入”に設定されると、液晶モニターに撮影ライトアイコン“”が表示されます。

5. シャッターを押して、動画を撮影する

重要

- 動画撮影では、【▼】()を押しても、撮影ライトの“入”／“切”を切り替えることができます。
- AF補助光／撮影ライト／セルフタイマーランプを覗いたり人の目に当てないように注意してください。
- AF補助光／撮影ライト／セルフタイマーランプを自動車などの運転者に向けないように注意してください。
- 被写体までの距離が遠くなると、効果が落ちます。

明るさを補正する(EVシフト)

撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を手動で補正することができます。逆光での撮影、間接照明の室内、背景が暗い場合の撮影などに利用すると、より良好な画像が得られます。

露出補正值：-2.0EV～+2.0EV

補正単位：1/3EV

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“EVシフト”を選び、【SET】を押す

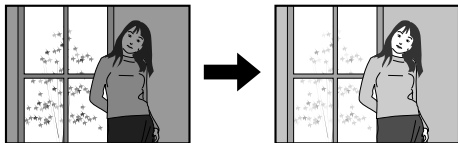


露出補正值

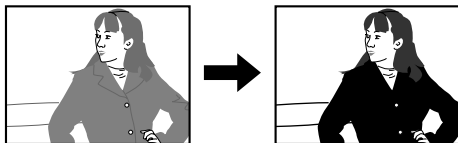
3. 【▲】【▼】で露出補正値を選ぶ

【▲】：＋方向に補正。白い物の撮影や逆光での撮影に向きます。

※ベストショットの“逆光”も便利です。



【▼】：－方向に補正。黒い物の撮影や晴天の野外などの撮影に向きます。



露出補正値を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して“0.0”に合わせてください。

4. 【SET】を押す

露出値が補正されます。
次に露出補正を変えるまで、
設定した露出補正値で撮影
できます。



露出補正値

重要

- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

参考




- 測光方式をマルチパターン測光(画面全体を分割し、それぞれのエリアの測光データを元に露出を決めます)に設定しているときに露出補正を行うと、測光方式が自動的に中央重点測光(中央部を重点的に測光します)に切り替わります。露出補正値を“0.0”に戻すとマルチパターン測光に戻ります(88ページ)。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで露出値を補正することができます(93ページ)。ヒストグラム表示(91ページ)を確認しながらの撮影に便利です。


色合いを変える(ホワイトバランス)


曇りの日に写真を撮ると被写体が青っぽく写ることがあります。また白色蛍光灯の光で撮ると被写体が緑がかって写ることがあります。このような現象を防ぎ、光源に合わせて被写体を自然な色合いで撮影できるように調整する機能がホワイトバランスです。


1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で撮影条件を選び、【SET】を押す

オート : 自動的にホワイトバランスを調整

-  太陽光 : 晴天時の野外での撮影用
-  曇天 : 薄雲～雨天の野外や木陰などの撮影用
-  日陰 : 晴天時の、ビルや木の陰などの撮影用

 昼白色 : 白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用

 昼光色 : 昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用

 電球 : 電球の雰囲気消した撮影用

マニュアル : その場の光源に合わせて手動で設定します。
詳しくは「マニュアルホワイトバランスを設定する」(86ページ)を参照してください。

参考

- ホワイトバランスの“オート”では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。このような場合は、太陽光、曇天など撮影条件を指定してください。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでホワイトバランスを変更することができます(93ページ)。
- キーカスタマイズ機能で“オート”を選ぶときは、“AWB” (オートWB)を選んでください。

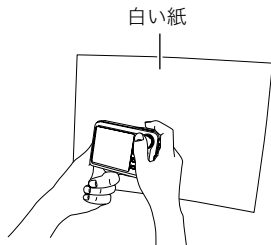
■ マニュアルホワイトバランスを設定する

ホワイトバランスの“オート”や太陽光、曇天など光源を指定する固定モードは、複数の光源下など難しい環境では調整できる範囲に限界があり、自然な色合いで撮れないことがあります。マニュアルホワイトバランスを設定すれば、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスを設定するために、白い紙を用意してください。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“マニュアル”を選ぶ
液晶モニターには、前回設定したバランスで被写体が表示されます。この設定で使う場合は、手順5に進んでください。

4. 撮影場所で画面全体に白い紙を写した状態でシャッターを押す

“完了”と表示されたらホワイトバランスの調整は完了です。



5. 【SET】を押す

ホワイトバランスを決定し、撮影ができる画面に戻ります。

- 設定したホワイトバランスは電源を切っても保持されます。

ISO感度を変える

ISO感度とは、光に対する感度を表したものです。数値が大きいほど感度が高くなり、暗い場所での撮影に強くなります。シャッター速度を速くしたいときにもISO感度を高めます。同じ撮影条件下ではISO感度を高くするとシャッター速度は早くなりますが、画像は多少ざらついた感じ(ノイズが増加した画像)になりますので、きれいに撮りたいときはなるべくISO感度を低くしてください。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“ISO感度”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

オート : 撮影条件により自動調整します。

ISO 64 : 感度が低い

ISO 100

ISO 200

ISO 400

ISO 800 : 感度が高い



重要

- ISO感度を上げてフラッシュ撮影すると、近くの被写体の明るさが適正にならない場合があります。
- 動画撮影では、ISO感度がどこに設定されていても、常に“オート”に設定されます。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでISO感度を変更することができます(93ページ)。
- ISO感度を“オート”に設定しておかないと、“ブレ軽減”(82ページ)の被写体ブレ補正が動きません。

光の測りかたを変える(測光方式)

測光方式とは、被写体のどの部分の露出を測るかを決定する方式のことです。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“測光方式”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

マルチ(マルチパターン):

画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。測光結果の明暗パターンによって撮影環境をカメラが自動的に判断し、露出を決定します。さまざまなシーンで失敗の少ない露出が得られます。



中央重点:

中央部を重点的に測光します。カメラ任せではなく、自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。



スポット:

センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。



重要

- “マルチ”設定時にEVシフト(84ページ)を行うと、測光方式が自動的に“中央重点”に切り替わります。EVシフトを“0.0”に戻すと、元の測光方式に戻ります。
- “マルチ”設定時は、撮影モードの情報表示に戻ったときにアイコンが表示されません(171ページ)。

黒つぶれを軽減する(ダイナミックレンジ)

撮影される画像の明るい部分はそのままで、黒つぶれを軽減し、ダイナミックレンジを拡大したかのような撮影ができます。例えば、逆光で被写体が黒ずんでしまう場合などに、可能な限り黒つぶれを抑えて撮影することができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“ダイナミックレンジ”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
拡大+2 : “拡大+1”より黒つぶれが軽減されます。
拡大+1 : 黒つぶれが軽減されます。
切 : 黒つぶれの軽減は行いません。

参考

- 撮影済みの画像に対しても、同じようにダイナミックレンジを補正することができます(115ページ)。

人物の肌のざらつきを軽減する(美肌処理)

撮影される人物の肌のざらつき(ノイズ)を軽減します。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“美肌処理”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
ノイズ消去+2 : “ノイズ消去+1”よりざらつきが軽減されます。
ノイズ消去+1 : ざらつきが軽減されます。
切 : ざらつきが軽減されません。

全体の色調を変える(カラーフィルター)

フィルター機能を使用して、撮影時の画像の色彩効果を変更することができます。色彩効果用のレンズフィルターを装着して撮影したような画像になります。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“カラーフィルター”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
設定できる内容: 切/白黒/セピア/赤/緑/青/黄/
ピンク/紫

鮮明さを変える(シャープネス)

撮影される画像の輪郭の鮮鋭度を設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“シャープネス”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
+2(もっとも鮮鋭度が高い)から-2(もっとも鮮鋭度が低い)までの5段階から選べます。

色の鮮やかさを変える(彩度)

撮影される画像の色の鮮やかさを設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“彩度”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
+2(色の鮮やかさがもっとも高い)から-2(色の鮮やかさがもっとも低い)までの5段階から選べます。

明暗の差を変える(コントラスト)

撮影される画像の明暗の差を設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“コントラスト”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
+2(明暗がもっともクッキリする)から-2(明暗がもっとも平坦になる)までの5段階から選べます。

日付や時刻を写し込む(タイムスタンプ)

撮影時に画像の右下に、日付や時刻を写し込むことができます。

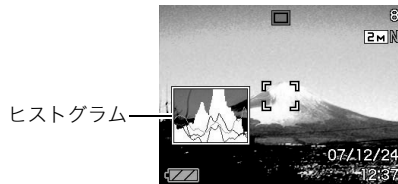
1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“タイムスタンプ”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
例)2007年12月24日 午後1時25分
日付 : 日付(2007/12/24)が写し込まれます。
日付+時刻 : 日付/時刻(2007/12/24 1:25pm)が写し込まれます。
切 : 日付/時刻は写し込まれません。

重要

- タイムスタンプ機能を使用しなくても、DPOF機能を利用したり、印刷用ソフトの機能で、日付や時刻を入れてプリントすることができます(142ページ)。
- いったん画像に写し込まれた日付や時刻を変更したり、消すことはできません。
- 年/月/日の並び順は“表示スタイル”の設定(131ページ)にしたがって写し込まれます。
- 時刻の表示は“日時”の設定(9、131ページ)にしたがって写し込まれます。
- タイムスタンプを設定して撮影すると、デジタルズームは働きません。
- 下記の撮影では、タイムスタンプは無効となります。
 - ベストショット撮影の一部(“名刺や書類を写します”、“ホワイトボードなどを写します”、“古い写真を写します”、“オートフレーミング”)

露出を確認する(ヒストグラム)

液晶モニター上にヒストグラムを表示させることで、露出(光の量や明るさ)をチェックしながら撮影することができます。再生モードでは撮影された画像のヒストグラムを見ることができます。



1. 【▲】(DISP)を何度か押す(36ページ)

参考

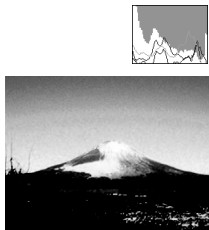
- キーカスタマイズ機能で“EVシフト”の切り替えを【◀】【▶】に割り当てると(93ページ)、ヒストグラムを確認しながら【◀】【▶】で露出を補正して撮影することができます。

■ ヒストグラムの見かた

ヒストグラム(輝度成分分布表)とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。もしもヒストグラムが片寄っていた場合は、露出補正(EVシフト)を行うと、ヒストグラムを左右に移動させることができます。なるべくグラフが中央に寄るように補正をすることによって、適正露出に近づけることができます。さらに静止画ではR(赤)、G(緑)、B(青)の色成分が独立したヒストグラムも同時に表示されますので、色ごとに「赤成分がオーバー」「青成分がアンダー」のように各色の分布状況も直感的に把握することができます。

典型的なヒストグラムの例

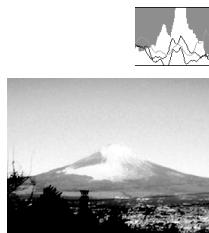
全体的に暗い画像は左寄りのヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎていると、黒つぶれを起こしている可能性もあります。



全体的に明るい画像は右寄りのヒストグラムになります。また、あまり右に寄り過ぎていると、白飛びを起こしている可能性もあります。



全体的に適度な明るさの画像は中央寄りのヒストグラムになります。



★ 重要

- 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となる訳ではありません。
- 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。
- フラッシュ撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムによりチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。

撮影を補助するいろいろな機能

撮影モードでは、次のことを行うことができます。

- 【◀】【▶】キーに機能を割り当てる
- 撮影時に構図の目安となる基準線(グリッド)を表示する
- 撮影した画像を確認する
- 設定を記憶させる
- 各種設定をリセットする

【◀】【▶】キーに機能を割り当てる (キーカスタマイズ)

【◀】【▶】キーに以下の5つのうちどれか1つの機能を割り当てる
ことができます。割り当てた機能は撮影モード時(静止画および
動画)にいつでも使えるので便利です。機能の説明は参照ページ
をご覧ください。

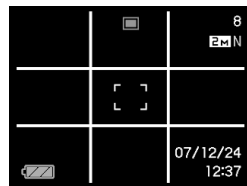
- 連写:連写モードを変える(54ページ)
- EVシフト:明るさを補正する(84ページ)
- ホワイトバランス:色合いを変える(86ページ)
- ISO感度:ISO感度を変える(87ページ)
- セルフタイマー:セルフタイマーの時間を設定する(52
ページ)
- 切:【◀】【▶】キーに機能を割り当てない

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“左右キー設定”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で割り当てる機能を選び、【SET】を押す
【◀】【▶】を押すだけで、割り当てた機能を使うことができる
ようになります。

撮影時に構図の目安となる基準線(グリッド)を 表示する

撮影時、液晶モニターに方眼を表示します。カメラを水平や垂直
に保つのに便利です。



1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“グリッド表示”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
入:グリッドを表示します。
切:グリッドを表示しません。

撮影した画像を確認する(撮影レビュー)

お買い上げいただいたときは、撮影直後の画像を液晶モニターで確認することができます。この機能を使えなくすることもできます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“撮影レビュー”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定項目を選び、【SET】を押す
入：撮影した画像が約1秒間表示されます。
切：撮影した画像は表示されません。




画面上のアイコンの意味を確認する (アイコンガイド)

撮影モード時に液晶モニター上でアイコンの意味を確認しながら操作することができます。

- アイコンの意味を確認できる機能は、次の通りです。
 - 撮影モード、フラッシュ、連写、ホワイトバランス、セルフタイマーただし、連写、ホワイトバランス、セルフタイマーのアイコンの意味は、キーカスタマイズ機能(93ページ)を“連写”、“ホワイトバランス”、“セルフタイマー”に設定したときのみ表示されます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“アイコンガイド”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
入：各種撮影機能を切り替えたとき、切り替えた機能を示すアイコンの近くに、アイコンの意味が表示されます。
切：アイコンの意味を表示しません。

重要

- アイコンガイドを“切”に設定すると、下記のアイコンも表示されません。
 - フラッシュモードの“A” (49ページ)
 - ホワイトバランスの“AWB” (86ページ)
 - 測光方式の“☉” (88ページ)

各種設定を記憶させる(モードメモリ)

モードメモリとは、電源を切ったときでも直前の状態を記憶しておく機能です。電源を入れるたびに毎回設定をし直す手間がはぶけます。モードメモリで設定できる機能は、手順4の表の機能です。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“モードメモリ”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定したい機能を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

入：電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。

切：電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機能	入	切
フラッシュ	最後の状態	オート
フォーカス方式		オート
ホワイトバランス		オート
ISO感度		オート
AFエリア		スポット
測光方式		マルチ
セルフタイマー		切
フラッシュ光量		0
デジタルズーム		入
MF位置		MF(マニュアルフォーカス)に切り替える前の位置
ズーム位置*		ワイド端

※ズーム位置では光学ズームの位置だけを記憶します。

各種設定をリセットする

本機の設定内容を初期値(ご購入直後の設定)に戻すことができます。初期値については「メニュー一覧表」(173ページ)をご覧ください。

1. 【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“リセット”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“リセット”を選び、【SET】を押す

- リセットしない場合は“キャンセル”を選びます。

重要

- 下記の項目は、リセットしても初期値に戻りません(174ページ)。
 - ホームタイムの詳細設定
 - ワールドタイムの詳細設定
 - 日時設定
 - 表示スタイル
 - Language
 - ビデオ出力

静止画や動画を再生する

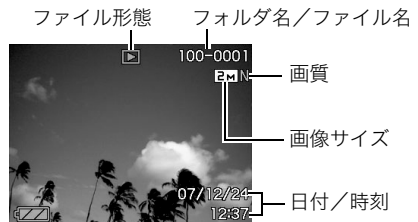
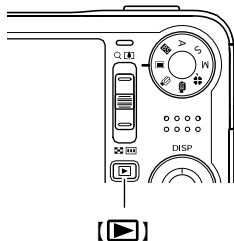
静止画を見る

撮影した静止画を液晶モニターで見ることができます。

1. レンズカバーをスライドして開き、電源を入れる

2. **[▶]**を押して、再生モードにする

- 記録されている静止画の中の1つが液晶モニターに表示されます。
- 表示されている静止画についての情報も表示されます(172ページ)。



- ファイル形態:通常の静止画のときは**[▶]**

- 静止画以外のもの(動画や、音声だけの記録)があるときは、ファイル形態がそれに対応したアイコンに変わります。
 - [▶]**:動画の再生→97ページ
 - [▶]**:音声付き静止画の再生→97ページ
- 情報表示を消して、静止画だけを見ることもできます(36ページ)。

3. **[◀▶]**で静止画を切り替える

[▶]を押すと次の静止画に、**[◀]**を押すと前の静止画に切り替わります。



参考

- [◀▶]**を押し続けると、早送りができます。
- 初めに表示される静止画は簡易画像のため粗く見えますが、すぐに精細な画像になります。ただし、他のデジタルカメラからコピーした画像はこの限りではありません。

撮影モードに切り替えるには

下記のいずれかの操作で撮影モードにすることができます。

- シャッターを押す
- モードダイヤルを希望の撮影モードに合わせる
- [▶]**(再生)を押す

音声付き静止画の音声を聞く

音声付き静止画(ファイル形態は“**[🔊]**”)の音声を、内蔵スピーカーで聞くことができます。

1. 再生モードにして、**[◀]**
[▶]で音声付き静止画を表示させる

ファイル形態のアイコンが“**[🔊]**”になります。このアイコンで、音声付き静止画であることを確認してください。



2. **[SET]**を押す

音声がスピーカーから再生されます。

音声の再生中にできること

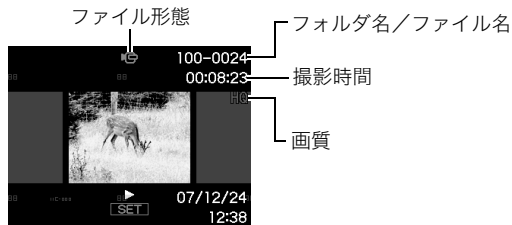
早送り/早戻しする	[◀] [▶] を押す
再生と一時停止を切り替える	[SET] を押す
音量を調節する	[▼] を押したあと、 [▲] [▼] を押す • 音量調節は、再生または一時停止中にだけできます。
表示内容を切り替える	[▲] (DISP)を押す
再生をやめる	[MENU] を押す

動画を見る

撮影した動画を、液晶モニターで再生することができます。

1. 再生モードにして、**[◀]****[▶]**で再生したい動画を表示させる

ファイル形態のアイコンが“**[📁]**”になります。このアイコンで、動画であることを確認してください(172ページ)。



映画のフィルムのようなふち取りが、動画であることを示しています。

2. **[SET]**を押して再生を始める

- 最後まで再生されると、手順1の画面に戻ります。

撮影モードに切り替えるには

下記のいずれかの操作で撮影モードにすることができます。

- シャッターを押す
- モードダイヤルを希望の撮影モードに合わせる
- **[▶]**(再生)を押す

動画の再生中にできること


早送り／早戻しする	【◀】【▶】を押す • 押すごとに、早送り、早戻しのスピードが速くなります。
早送り／早戻しから通常の再生に戻す	【SET】を押す
再生と一時停止を切り替える	【SET】を押す
一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】を押す • 押し続けると、連続してコマ送りします。
音量を調節する	【▼】を押したあと、【▲】【▼】を押す • 音量調節は、再生中にだけできます。
情報表示をオン／オフする	【▲】(DISP)を押す
拡大する	ズームレバーを【Q】(Q)にスライドさせる • 拡大中は、【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大部分を移動できます。 • 動画は3.5倍まで拡大できます。
再生をやめる	【MENU】を押す

重要

- このカメラで撮影した動画以外は、再生できない場合があります。

手ブレを補正しながら動画を再生する

撮影時の手ブレを補正しながら動画を再生することができません。カメラとテレビをつないだときなどに、手ブレを補正した状態で観賞できるので便利です。

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→ “手ブレ補正”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“入”を選び【SET】を押す
 - 手ブレ補正を“入”に設定すると、液晶モニターに表示される再生画面の表示範囲が若干狭まります。
4. 【SET】を押して再生を始める

重要



- 撮影された動画の画質が“LP”の場合は、手ブレを補正しながら動画を再生することはできません。



自動的にページ送りして楽しむ (スライドショー)

撮影、記録したものを自動的に次々と再生させることができます(スライドショー)。

いろいろな見かたを設定することができます。

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“スライドショー”と選び、【▶】を押す
3. スライドショーの見かたを設定する
【▲】【▼】で設定を変更したい項目を選び、下の表を参照して設定してください。

表示画像 (スライドショーで再生させるもの)	<ul style="list-style-type: none"> ● 全画像:メモリー内のすべての静止画、動画、および音声のみの記録 ● のみ:静止画、音声付き静止画のみ ● のみ:動画のみ ● 1枚画像:好きな画像ひとつのみ(【◀】【▶】で表示させる画像を選びます。) ● お気に入り:お気に入りフォルダ(124ページ)内の静止画
時間 (スライドショー開始から終了までの時間)	1~5分、10分、15分、30分、60分のいずれかを【◀】【▶】で選びます。

間隔 (切り替わりの間隔)	<p>1~30秒、または“最速”を【◀】【▶】で選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1~30秒を選んだときは、動画や音声付き静止画、音声のみの記録は、選んだ間隔にかかわらず最初から最後まで再生されます。 - “最速”を選ぶと、動画は最初のコマだけ表示されます。音声のみの記録は再生されません。
エフェクト (特殊効果)	<p>【▲】【▼】で希望のエフェクトを選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パターン1~5:特殊効果をまじえながら画像を切り替えて表示、BGMも再生 <ul style="list-style-type: none"> - “パターン5”を選択すると“表示画像”は、“のみ”になります。また、“間隔”の設定は、無効になります。 ● 切:特殊効果とBGMの再生をしないただし、下記の場合は、特殊効果が無効になります。 <ul style="list-style-type: none"> - “表示画像”を“のみ”、“1枚画像”、“お気に入り”にした場合 - “間隔”を“最速”、“1秒”または、“2秒”にした場合 - “動画”や“ボイスレコード”の再生の前後

4. スライドショーを開始する

【▲】【▼】で“開始”を選んで【SET】を押します。

設定した時間が経過するまでスライドショーが続きます。

- 再生中に【◀】【▶】を押すと画像を送ることができます。ただし、“エフェクト”を“パターン5”にしたときを除きます。
- 音声再生中に【▼】を押したあと【▲】【▼】を押すことにより、音量を調整することができます。

スライドショーを中断するには

【SET】を押します。再生モードに戻ります。

- 【MENU】を押すと、中断してメニューに戻ります。
- シャッターを押すと、中断して撮影モードに切り替わります。

重要

- 画面の切り替わり中はボタン操作が効かなくなります。画面が静止しているときにボタン操作をしてください。ボタンが効かない場合は、しばらくボタンを押し続けてください。

参考

- “表示画像”を“1枚画像”にしたときに動画を選ぶと、動画は設定された時間内で繰り返し再生します。
- パソコンからコピーした画像や、他のデジタルカメラの画像では、切り替わる間隔が設定した間隔より長くなる場合があります。

■ USBクレードルを使ってスライドショーを楽しむ (フォトスタンド)

カメラをUSBクレードルにセットした状態でスライドショー再生をすることができます。電池の消耗を気にせずに長時間のスライドショーを楽しむことができます。

- あらかじめスライドショーの設定をしておいてください(99ページ)。
- USBクレードルは付属のACアダプターを使ってコンセントにつないでおいてください。

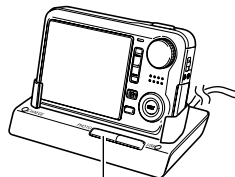
1. カメラの電源を切り、カメラをUSBクレードルにセットする

2. スライドショーを開始する

USBクレードルの【PHOTO】を押します。

設定した時間が経過するまでスライドショーが続きます。設定した時間が経過すると、自動的にカメラの電源が切れます。

- 再生中に【MENU】を押してスライドショーの設定を変更できます。設定変更後、もう一度【MENU】を押すとスライドショーが再開します。
- 音量を調節するには、再生中に【▼】を押し、液晶モニターの左に音量表示が表れたら【▲】【▼】を押します。



【PHOTO】

スライドショーを中断するには

USBクレードルの【PHOTO】を押します。カメラの電源が切れます。

重要

- スライドショー中は電池は充電されません。電池を充電する場合は、スライドショーを終了してください。
- スライドショー中にカメラをUSBクレードルから取りはずさないでください。データが破壊する可能性があります。

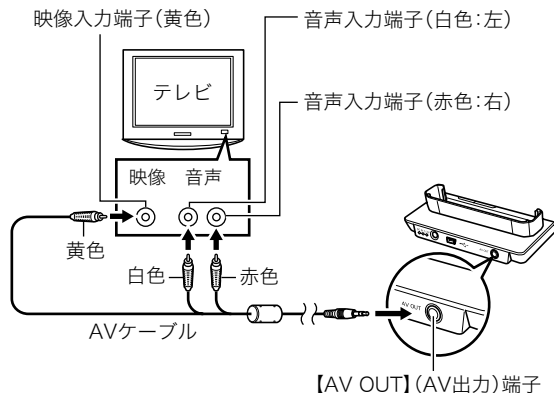
参考

- テレビにつないでスライドショーを見ることができます。ビデオにつなげば、画像をビデオに録画することもできます(101ページ)。

テレビで画像を見る

カメラに記録してある静止画や動画を、テレビの画面で見ることができます。

1. USBクレードルとテレビをつなぐ



2. カメラの電源を切り、カメラをUSBクレードルにセットする

3. テレビの映像入力を“ビデオ入力”に切り替える

テレビに映像入力が2つ以上ある場合は、USBクレードルをつないだ映像入力を選んでください。

4. (再生)を押して、カメラの電源を入れる

カメラが再生モードになり、テレビの画面に画像が表示されます。


5. 以後、カメラで再生の操作を行う

- USBクレードルの【PHOTO】を押して、スライドショーを開始することもできます(100ページ)。


カメラの電源を切るには

カメラの  (再生) または USBクレードルの【USB】を押すと、カメラの電源が切れます。

重要

- テレビに画像を映すとき、カメラの“ パワーオン”の設定を必ず“パワーオン”または“長押しオン”に設定しておいてください(134ページ)。
- 液晶モニターに表示されるアイコンなどは、そのままテレビ画面に表示されます。
【▲】(DISP)で表示内容を切り替えることもできます。
- 音声はステレオになります。
- お使いのテレビによっては、画像の一部が表示されないことがあります。
- 音声は最大で出力されます。はじめにテレビの音量を小さくしておき、テレビ側で音量を調節してください。

参考

- DVDレコーダーやビデオデッキとUSBクレードルを介して接続して、カメラの画像を録画することができます。録画するにはさまざまな接続方法がありますが、一例として、付属のAVケーブルを次のように接続します。
 - DVDレコーダーやビデオデッキ側:映像入力端子、音声入力端子
 - カメラ側:USBクレードルの【AV OUT】(AV出力)端子このとき、カメラでスライドショーを実行すれば、静止画や動画を記録した思い出のDVDやビデオテープが簡単に作れます。スライドショーの設定を“のみ”にすれば、動画だけの録画もできます(99ページ)。また、情報表示を“切”に設定することで、画像だけを録画することができます(36ページ)。
- 録画する画像の確認は、接続したDVDレコーダーやビデオデッキから出力される画像をテレビなどに表示させてご確認ください。DVDレコーダーやビデオデッキから出力される画像の見かたや録画方法については、DVDレコーダーやビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。

■ 画面の横縦比とビデオ出力の方式を変更する

本機では、ビデオ信号をNTSCまたはPAL、テレビ画面のアスペクト比(横縦比)を4:3または16:9のいずれかで出力できます。お買い上げいただいたときは、日本国内の仕様に合わせて、NTSC4:3で出力します。

海外でお使いの場合でPAL仕様のテレビにつながるときは、ビデオ信号の出力をPALに切り替えてください。

1. 【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“ビデオ出力”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

NTSC4:3 : 日本のほか、アメリカなどでも使用されています。通常の画面比率のテレビ用です。

NTSC16:9 : 日本のほか、アメリカなどでも使用されています。ワイド画面のテレビ用です。

PAL4:3 : ヨーロッパなどで使用されています。通常の画面比率のテレビ用です。

PAL16:9 : ヨーロッパなどで使用されています。ワイド画面のテレビ用です。

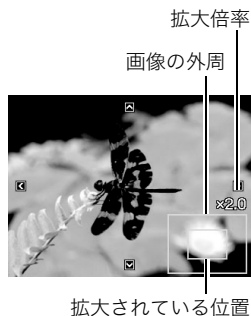
☀ 重要

- お使いのテレビ画面のアスペクト比(4:3または16:9)に合わせ、正しく設定してご利用ください。このとき、テレビ側のアスペクト比の設定も正しく設定されている必要があります。カメラとテレビ両方のアスペクト比の設定が揃っていないと、画面が正常に表示されない場合があります。
- 本機のビデオ方式とテレビのビデオ方式が合わないと正しく表示されません。
- NTSC、PAL以外の方式のテレビでは、画像は正しく表示されません。

画像を拡大して表示する

撮影した静止画を8倍まで拡大して見ることができます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で拡大したい静止画を表示させる
2. ズームレバーを【Q】(Q)側にスライドさせて、画像を拡大表示させる【▲】【▼】【◀】【▶】で、拡大表示される位置を変えることができます。
ズームレバーを【AAA】側にスライドさせると、縮小表示されます。
 - 情報表示をオンにしてあるとき、画像の右下に、拡大されている位置が表示されます。



画面に9枚の画像を表示する

撮影した内容を同時に9枚一覧表示できます。

1. 再生モードにしてズームレバーを【AAA】(AAA)側にスライドさせる
画面に9の画像が表示され、最後に見ていた画像が枠で囲まれて表示されます。



2. 表示を切り替える
 - 【◀】【▶】を押していくと、前後の9枚を表示します。
 - 通常表示(1枚表示)で見たいときは【▲】【▼】【◀】【▶】を押して、見たい画像に枠を合わせて【SET】を押します。

元の表示に戻するには

【MENU】を押します。

重要

- 画像のサイズによっては、8倍まで拡大できないことがあります。

カレンダー形式で画像を表示する

1ヶ月分のカレンダーの日付上に、その日に撮影した最初の画像を表示させることができます。日付から画像をすばやく探すことができます。

1. 再生モードにしてズームレバーを【】() 側に2回スライドさせる

カレンダー表示になり、日付と、その日に撮影した最初の画像が表示されます。

- 【MENU】を押してから、“再生機能”タブ→“カレンダー表示”と選び、【▶】を押してもカレンダー表示になります。
- カレンダー表示をやめるには、【MENU】を押します。

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で見たい画像のある日付に枠を合わせ、【SET】を押す

その日に撮影した最初の画像が表示されます。



参考

- カレンダー表示での年/月は、“表示スタイル”(131ページ)の設定によります。

重要

- 下記の機能を使用して保存した画像は、カレンダー表示の日付には正しく反映して表示することができません。各機能で保存した時点の日付で表示される画像
 - アンゲル補正/退色補正/リサイズ/トリミング/コピー/レイアウトプリント/モーショープリント撮影時の日付で表示される画像
 - 日時編集

撮影した画像を編集する

画像サイズを小さくする(リサイズ)

撮影した静止画のサイズを小さくして、新しい静止画として保存することができます。元の静止画も残ります。以下の3つのサイズに変えることができます。

画素数(pixels)			プリントサイズ
大きい ↑	5M*	2560×1920	A3プリント
	3M	2048×1536	A4プリント
↓ 小さい	VGA	640×480	Eメール • Eメールで画像を送りたい場合に最適です。

※Mはメガ(100万)の意味です。

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ → “リサイズ”と選び、【▶】を押す
3. 【◀】【▶】でリサイズしたい静止画を表示させる
4. 【▲】【▼】で変更後のサイズを選び、【SET】を押す
 - 画像サイズの選択中は、画素数(pixel数)とプリントサイズが自動的に切り替わって表示されます。プリントサイズは、選んだ画素数に対して、プリント時に最適な用紙のサイズを示しています。

5. 続けて別の静止画をリサイズする場合は手順3、手順4を繰り返す
 - リサイズをやめるには“キャンセル”を選んで【SET】を押してください。



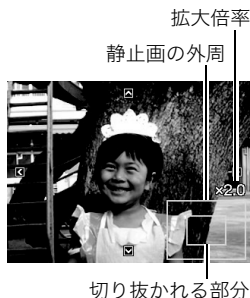
重要

- サイズがVGA(640×480 pixels)の画像はリサイズできません。
- 3:2の画像をリサイズすると、画像の両脇が削られ、画像の横縦比が4:3になります。
- リサイズした静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

静止画の一部を切り抜く(トリミング)

撮影した静止画の一部を切り抜いて、新しい静止画として保存することができます。元の静止画も残ります。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】でトリミングしたい静止画を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ → “トリミング”と選び、【▶】を押す
 - 静止画が表示されているときのみ操作できます。



4. ズームレバーで静止画を拡大、縮小したり、【▲】【▼】【◀】【▶】で表示位置を変えて、切り抜く部分を決める

5. 【SET】を押す

- トリミングをやめるには、【SET】を押す前に【MENU】を押します。

重要

- 3:2の画像をトリミングすると、画像の横縦比が4:3になります。
- トリミング後の静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

黒板やポスターを正面から見たように補正する(アングル補正)

すでに撮影した黒板、書類、ポスターや写真などの静止画を、正面から撮影したように(長方形・正方形に)ゆがみを補正します。アングル補正した画像は、アングル補正する前の画像とは別に、最新ファイルとして2M(1600×1200 pixels)のサイズで保存されます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で補正したい静止画を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ → “アングル補正”と選び、【▶】を押す
補正確認画面が表示されます。
 - 静止画が液晶モニターに表示されているときのみ操作することができます。
4. 【◀】【▶】で補正候補を選ぶ



5. 【▲】【▼】で“補正”を選び、【SET】を押す

- 補正を中止する場合は“キャンセル”を選びます。

重要

- 元の画像サイズが2M(1600×1200 pixels)より小さい場合は、元の画像と同じサイズで保存されます。
- アングル補正した画像をカメラで表示した場合、日付はアングル補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されません。

古く色あせた写真を補正する(退色補正)

デジタルカメラで撮影した古く色あせた写真を、後から退色の補正をすることができます。すでに撮影した古い写真やポスターなどを補正するのに便利です。

- 退色補正した画像は、退色補正する前の画像とは別に、最新ファイルとして2M(1600×1200 pixels)のサイズで保存されます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で補正したい静止画を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ → “退色補正”と選び、【▶】を押す
4. 【◀】【▶】で写真の輪郭候補を選ぶ
5. 【▲】【▼】で“決定”を選び、【SET】を押す
画像の一部を切り抜く操作(トリミング)により、液晶モニターに画像を切り抜くための枠が表示されます。
 - “キャンセル”を選ぶと、補正せず、何も保存されずに終了します。
6. ズームレバーをスライドさせて枠を拡大/縮小し、補正する画像の大きさを決める

7. 【▲】【▼】【◀】【▶】で切り抜きたい部分に枠を移動して補正する画像の位置を決め、【SET】を押す

あせた色を自動的に補正し、画像を保存します。

- 画像の周囲に余白を付けたくない場合は、撮影した写真よりも補正画像を小さく指定してください。
- 【MENU】を押すと、何も保存されずに退色補正が終了します。

重要

- 元の画像サイズが2M(1600×1200 pixels)より小さい場合は、元の画像と同じサイズで保存されます。
- 退色補正した画像をカメラで表示した場合、日付は退色補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

参考

- 退色補正を撮影から補正まで一貫して行いたい場合は、「古く色あせた写真を蘇らせる(よみがえりショット)」(72ページ)をご覧ください。

撮影画像の日時情報を修正する

すでに撮影した画像の日時情報(撮影日/撮影時刻)をカメラで修正することができます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で日時を修正したい静止画を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ → “日時編集”と選び、【▶】を押す
4. 日付と時刻を修正する
【▲】【▼】 : カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】 : カーソル(選択枠)を移動します。
ズームレバー : 12時間表示と24時間表示の切り替えができます。
5. 【SET】を押して、修正を終了する
 - 修正後は、画面を表示して、日時が正しく修正されたかどうかを確認してください。

重要

- タイムスタンプ機能により写し込んだ日付と時刻は修正できません(90ページ)。
- メモリープロテクトのかかったファイルは、日時を修正できません。メモリープロテクトを解除してから、日時を修正してください。
- 入力できる日付は、1980年1月1日～2049年12月31日となります。

画像を回転させる

撮影した画像を回転して表示させることができます。カメラを縦に構えて撮影した画像を見るときなどに便利です。さらに回転させて元の状態に戻すことができます。

- 画像データそのものが回転するわけではありません。液晶モニターでの表示のしかたを変えているだけです。

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ → “回転表示”と選び、【▶】を押す
3. 【◀】【▶】で回転させたい画像を表示させる
4. 【▲】【▼】で“回転”を選び、【SET】を押す
【SET】を押すごとに、90° 左回りに回転します。
5. 希望の表示状態になったら【MENU】を押す

重要

- メモリープロテクトをかけた画像を回転させることはできません。回転させたいときは、メモリープロテクトを解除してください(123ページ)。
- 拡大表示された画像は回転できません。
- 9画面表示、カレンダー表示では、回転前の画像が表示されます。

複数の写真を組み合わせる (レイアウトプリント)

あらかじめ用意された複数のフレームに、撮影済みの静止画をレイアウトし、新たに保存することができます。

- レイアウトパターン(2枚)
- レイアウトパターン(3枚)

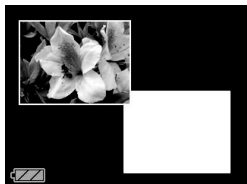


1. 再生モードにして【◀】【▶】で最初にレイアウトする画像を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ → “レイアウトプリント”と選び、【▶】を押す

- 静止画が表示されているときのみ操作できます。



4. 【◀】【▶】で好きなレイアウトパターンを選び、【SET】を押す



5. 【◀】【▶】で背景の色を選ぶ

6. 【SET】を押す



7. 【◀】【▶】でレイアウトする画像を選び、【SET】を押す

8. 残りのフレームについても、同様に手順6、7を繰り返す最後の画像をレイアウトし終わると、レイアウトした画像が保存されます。
- 【MENU】を押すとレイアウトした画像は保存されず、再生モードの画面に戻ります。
 - レイアウト上のすべての写真ははめ込まないと、写真は保存されません。

重要







- 画像サイズが“3:2(3072×2048 pixels)”の場合、レイアウトできません。
- レイアウトした画像をカメラで表示した場合、日付はレイアウトした日付ではなく、レイアウトした最後のフレームを撮影した日付が表示されます。
- 画像サイズは自動的に7M(3072×2304 pixels)に固定され、保存されます。

画像の色味を変える(ホワイトバランス)

撮影した静止画像の色味を、さまざまな光源下で撮影したような色味に変えることができます。

1. 再生モードにして【◀】【▶】で色味を変えたい画像を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ → “ホワイトバランス”と選び、【▶】を押す
 - 静止画が液晶モニターに表示されているときのみ操作することができます。

4. 【◀】【▶】で変更したい色味を選び、【SET】を押す

-  太陽光 : 晴天時の野外で撮影したような色味
-  曇天 : 薄雲～雨天の野外や木陰などで撮影したような色味
-  日陰 : ビルの陰など極端に色温度が高いところで撮影したような色味
-  昼白色 : 白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
-  昼光色 : 昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
-  電球 : 電球の雰囲気や色を消して撮影したような色味
- キャンセル : 色味の変更を中止

- 設定項目を示す反転は、色味を変える前の画像撮影時に設定したホワイトバランスの位置に表示されます。ただし、ホワイトバランスを“オート”または“マニュアル”に設定して撮影した場合は、キャンセルの位置に表示されず(86ページ)。
- 撮影時のホワイトバランスを忘れて、撮影時と同じホワイトバランス(色味)を選んで【SET】を押したとしても、キャンセルと同じ扱いになり、色味は変わりません。

重要

- 色味を変えた画像は、色味を変える前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 色味を変えた画像をカメラで表示した場合、日付は色味を変えた日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の明るさを変える(明るさ編集)

撮影した静止画像の明るさを変えることができます。

1. 再生モードにして【◀】【▶】で明るさを変えたい画像を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ → “明るさ編集”と選び、【▶】を押す
 - 静止画が液晶モニターに表示されているときのみ操作することができます。
4. 【▲】【▼】で明るさの設定値を選び、【SET】を押す
+2(もっとも明るい)から-2(もっとも暗い)までの5段階から選べます。
 - 明るさ編集を中止したいときは、【◀】または【MENU】を押してください。

重要

- 明るさを変えた画像は、明るさを変える前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 明るさを変えた画像をカメラで表示した場合、日付は明るさを変えた日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

黒つぶれを軽減する(ダイナミックレンジ)

画像の明るい部分はそのままで、黒つぶれを軽減します。




1. 再生モードにして【◀】【▶】で階調を補正したい画像を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ → “ダイナミックレンジ”と選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
拡大+2 : “拡大+1”よりも強い効果があります。
拡大+1 : 黒つぶれを軽減します。

重要

- 階調を補正した画像は、階調を補正する前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 階調を補正した画像をカメラで表示した場合、日付は階調を補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

動画をカットする(ムービーカット)

撮影した動画の一部をカット(削除)することができます。以下の3通りのカット方法があります。

 カット (前カット)	選択した場面から前をカットします。
 カット (中カット)	選択した場面と場面の間をカットします。
 カット (後カット)	選択した場面から後をカットします。

重要

- カット編集すると、元の動画は残りません。一度カットすると、カットした場面を元に戻すことはできません。
- 5秒未満の短い動画は、カットできません。
- このカメラで撮影した動画以外は、ムービーカットできません。
- カット編集しようとしている動画ファイルよりも残りのメモリー容量が少ない場合は、ムービーカットできません。その場合は、不要なファイルを消去するなどして、残りのメモリー容量を増やしてください。
- 動画を二つに分けたり、二つの動画を一つにすることはできません。

1. カットしたい動画を再生する

2. 【SET】を押して一時停止する

- “▼” (カットアイコン) が表示されていることを確認してください。表示されていない場合は、もう一度【SET】を押してください。



カットアイコン

3. 【▼】を押す

- 以下のように操作しても同じ画面が表示されます。
①再生モードでカットしたい動画を選び、【MENU】を押す
②“再生機能”タブ→“ムービーカット”と選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】でカット方法を選び、【SET】を押す

- カットを中止するときは、“キャンセル”を選んで【SET】を押します。一時停止状態に戻ります。

5. 以下の操作で、カットしたい位置 (境界のコマ) を探す



カットされる範囲 (赤い部分)

早戻し/早送りする	【◀】【▶】を押す
再生と一時停止を切り替える	【SET】を押す
一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】を押す

- カットを中止するときは、【MENU】を押します。手順3の画面に戻ります。

6. カットしたい位置が決まったら、【▼】を押す



カット (前カット)	カットしたい最後の場面 (コマ) が決まったら、【▼】を押す
カット (後カット)	カットしたい先頭の場面 (コマ) が決まったら、【▼】を押す
カット (中カット)	① カットしたい先頭の場面 (コマ) が決まったら、【▼】を押す ② カットしたい最後の場面 (コマ) が決まったら、【▼】を押す

7. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

- カットを中止するときは、“いいえ”を選んで【SET】を押します。一時停止状態に戻ります。
- カットには、しばらく時間がかかります。“処理中ですしばらくお待ちください”の表示が消えるまで待ってください。編集する動画が長いときは非常に時間がかかることがあります。

動画から静止画を作成する (モーションプリント)

撮影した動画から印刷用の静止画を作ることができます。以下の2種類から選べます。

9コマで作成 (2M 1600× 1200 pixels)	選んだ場面を最も大きくレイアウトした9コマを1枚の静止画にして記録します。 
1コマで作成 (VGA 640× 480 pixels)	選んだ1コマを静止画にして記録します。 


1. 再生モードにして、【◀】【▶】で素材にする動画を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ → “モーショープリント”と選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で“9コマで作成”または“1コマで作成”を選ぶ
5. 【◀】【▶】で静止画にしたい場面を探す
 - 【◀】【▶】を押し続けると、早戻し／早送りができます。
6. 【SET】を押す
 - “9コマで作成”を選んだときは、手順6の場面が最も大きくレイアウトされた9コマが静止画になります。
 - “1コマで作成”を選んだときは、手順6の場面が静止画になります。

重要

- このカメラで撮影した動画以外は、モーショープリントできません。

音声を活用する

静止画に音声を追加する(アフレコ)

音声を付けずに撮影した静止画に、あとから音声を付けることができます(アフレコ)。あとから音声を付けた場合も、その静止画は音声付きの静止画(“”)が表示される静止画)になります。

音声付きの静止画の音声を録音し直すこともできます。

音声は、ひとつの静止画につき最長約30秒まで録音できます。

- 音声はモノラルになります。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で音声を追加したい静止画を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ → “アフレコ”と選び、【▶】を押す
 - 静止画が表示されているときのみ操作することができます。
4. 【SET】を押して録音を開始する
5. もう一度【SET】を押して録音を終了する
【SET】を押さなくても、約30秒経過すると録音は終了します。

追加した音声を聞くには

音声付き静止画の音声を聞くとときと同じように操作します(97ページ)。

■ 音声を録音し直す



重要

- 音声を消去、変更すると、音声を元に戻すことはできません。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で音声を録音し直したい静止画を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ → “アフレコ”と選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す
 - 音声を消すだけにしたいときは、続けて【MENU】を押してください。
5. 【SET】を押して録音を開始する
前の録音は消え、新しい音声録音されます。
6. もう一度【SET】を押して録音を終了する
【SET】を押さなくても、約30秒経過すると録音は終了します。

参考

- 音声のデータ形式などは以下のとおりです。
 - 録音形式: WAVE/ADPCM記録形式(拡張子は.WAV)
 - 音声ファイルサイズ: 約165KB(約5.5KB/秒で30秒間録音時)
- 録音時の注意事項については56ページをご覧ください。

音声だけを録音する(ボイスレコード)

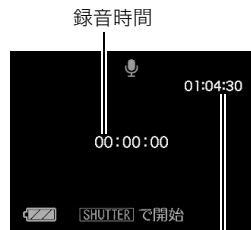
静止画や動画は撮影せず、音声だけを録音することができます。内蔵メモリーを使った場合、最長約36分録音できます。

- 音声はモノラルになります。

1. モードダイヤルを“**BS**”に合わせて、**[SET]**を押す
2. **[▲][▼][◀][▶]**で“ボイスレコード”を選び、**[SET]**を押す
液晶モニターに“**U**”が表示されます。

3. シャッターを押して録音を開始する

- 録音中は、動作確認用ランプが緑色に点滅します。
- 録音中に**[SET]**を押すと、その部分にマークが付きます。再生するとき、マークの位置に簡単に移動できます。



録音可能時間

4. もう一度シャッターを押して録音を終了する

- シャッターを押さなくても、メモリーがいっぱいになると録音は終了します。

5. 続けて次の録音をする場合は手順3、手順4を繰り返す


- ボイスレコードをやめるには、【SET】を押し、“ボイスレコード”以外の設定を選んで【SET】を押してください。

参考

- ボイスレコードで録音した音声は、パソコンで再生することもできます (WindowsではWindows Media Player、MacintoshではQuickTimeを使用します)。
- 音声のデータ形式などは以下のとおりです。
 - 録音形式: WAVE/ADPCM記録形式 (拡張子は.WAV)
 - 音声ファイルサイズ: 約165KB (約5.5KB/秒で30秒間録音時)
- 録音時の注意事項については56ページをご覧ください。

■ ボイスレコードの音声を聞く

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で再生したいボイスレコードの画面を表示させる

ボイスレコードの画面には、“”が表示されます。

2. 【SET】を押して再生を始める



音声の再生中にできること

早送り/早戻しする	【◀】【▶】を押し続ける
再生と一時停止を切り替える	【SET】を押す
マークの位置から再生する	一時停止中に【◀】【▶】を押し、希望のマークの位置で【SET】を押す
音量を調節する	【▼】を押したあと、【▲】【▼】を押す • 音量調節は、再生または一時停止中にだけできます。
液晶モニターの表示のオン/オフを切り替える	【▲】(DISP)を押す
再生をやめる	【MENU】を押す